

開講日	2022年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	Web(Zoom)配信 + 録画配信 (対面講義は行いません)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学 教授 赤津裕康		
科目概要および期待される成果	【概要】本講座は”学び直し”と大学院講義の並列コースになります。現状ではリアル開催になるかまだ未定な状況ではありますが受講には一定の医学、医療、社会福祉、健康予防の基礎知識がある事が前提となります。超高齢社会の中で我々医療人が抑えておくべき重要な問題、高齢者の身体的問題を中心に講義いただく予定です。地域・在宅医療の現場の実態から認知症・老年医学の分野まで最先端、最新のお話も講義に織り交ぜられることとします。これらは相反するようにも捉えられがちですが、現在の人類が経験したことのない労働人口減少、多死・人口減少、高齢者中心・認知症患者の増大する社会にCOVID-19パンデミック感染拡大でさらに社会は大きく変わりつつあります。この状況に柔軟に対応するためには幅広い知識と柔軟な対応能力が要求されます。有資格者で現場復帰の準備として、また、大学院生にとっては老年医学を中心とした幅広く深い講義となるかと思えます。本15コマのコースを修了することで、今後の社会に対応できる力の一部を養う事が出来るものと確信しています。		
目標とする資格	医療・介護・社会福祉系有資格者、行政・教育関係者、大学院生		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	骨粗鬆症治療:今ここまで治療可能になった	骨粗鬆症治療を取り巻く環境はこの20年の間に劇的に変化しました。20年前には加齢現象だから仕方ないとされてきたものが、1-2年の治療で正常近くまで戻り行ける薬が次々と登場しました。最近の薬剤の特徴と薬剤選択の方策について最新知識を含めて述べていきたいと思います。	4月7日	講師 鈴木 伸幸 名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科学分野
L-2	2	病理解剖からみた高齢者疾患の特徴	高齢者で頻度の高い認知症、脳血管障害、虚血性心筋障害、閉塞性肺疾患、骨折、前立腺肥大などの疾患について病理解剖から見た所見を画像・写真を用いて概説し、これらの疾患の予防のために大切なことを考える基礎資料を提供し、現在の医療における病理解剖の重要性についても触れる。	4月14日	所長 橋詰 良夫 医療法人さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所
L-3	3	総合診療と在宅医療 在宅のベストプラクティス	2018年4月総合診療専門医という新しい専門医制度が始まりました。また、在宅医療は地域においてはまだまだ不十分です。豊田市の豊田地域医療センターでは、総合診療医が在宅医療を行い、地域の在宅支援診療所と在宅養育支援病院をつなぐ役割も行っていきます。総合診療と在宅医療と中病院の新しい価値について説明したいと思います。	4月21日	准教授 大杉 泰弘 藤田医科大学 総合診療プログラム 豊田市・藤田医科大学連携地域医療学 豊田地域医療センター副院長
L-4	4	病院を中心とした地域包括ケア～豊田市の中山間地域にて～	豊田市足助地区は少子高齢社会の先進地区である。地域コミュニティの中心であった小学校が統廃合され、かつ過疎により地域づくりの中心がなくなりつつある。健康維持は人々の関心が最も高く、医療、福祉、保健活動がそれを支える。これらサービスが少ないへき地における足助病院の取り組みを紹介する。	4月28日	名誉院長 早川 富博 JA 愛知厚生連 足助病院
L-5	5	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割	2005年の介護保険法改正で初めて「地域包括ケアシステム」という言葉が明示された。地域包括ケアシステムの中では、医療だけでなく予防的な取り組みによる健康寿命の延伸も進められており、地域で活躍する看護職の果たす役割も大きい。ここでは、地域包括ケアシステムの基礎を概説するとともに、そこでの看護職の役割について紹介する。	5月12日	准教授 山口 知香枝 名古屋市立大学大学院看護学研究科 地域保健看護学
L-6	6	高齢者におけるせん妄	高齢者医療においてせん妄を有する患者に遭遇する機会は多くあります。せん妄は患者や家族にとって強い苦痛となるのみならず、さまざまな悪影響をもたらしますが、その原因や症状の多様さなどのために医療者にとって対応は困難な問題の一つとなっています。本講義ではせん妄とはどのような病態なのか、どのように評価・対応を行うのかについて、明日から役立つように平易に解説します。また近年は予防の重要性が示唆されるようになってきていますので、その実際についても概説します。	5月19日	教授 奥山 徹 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 精神科・緩和ケアセンター
L-7	7	アルツハイマー病の現在～基礎研究から臨床実装に向けて～	アルツハイマー病の基礎研究には、他の多くの神経疾患と比べて大きな予算が投じられ、多くの研究者が関わってきた。その成果として基本的な発症メカニズム解明は大きく前進し、治療標的の同定や診断法開発に道を開いてきた。こうした基盤の上から、アルツハイマー病制御薬が開発され、臨床実装を開始しようとしている。同時に、早期診断方法の開発も進められており、アルツハイマー病制御に向けた新しい時代が訪れようとしている。	5月26日	教授 道川 誠 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経化学分野
L-8	8	認知症克服へ:基礎研究からの応用	認知症は、世界中でその克服が切望されています。これまでどのような薬剤が臨床応用され、何が問題なのか。それを克服するために基礎研究の現場でどのような研究が行われているのか?、そしてどう応用していけるのか?最新治験の情報も含めてお話しします。	6月2日	教授 齊藤 貴志 名古屋市立大学大学院医学研究科 認知症科学分野
L-9	9	認知症臨床から見た治療開発の可能性+加齢との向き合い方	アルツハイマー病治療薬開発が精力的に行われてきたが、残念ながら有効な根本治療薬の開発には至っていない。疫学調査の結果から見えるアルツハイマー病病態の解明に向けた方向性と認知症予防の可能性を臨床医の視点から概説する。	6月9日	教授 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-10	10	超高齢社会における胃瘻PEG管理	無駄な延命治療と評判の悪い胃瘻PEG。しかしながらPEGは単に栄養補給法の一手段にすぎず、また長期の栄養管理を要する症例においては良い適応がある。本講義ではPEGの真の適応について再考するとともに、その造設法、合併症、管理法について細説したい。	6月16日	院長 蟹江 治郎 ふきあげ内科胃腸科クリニック
L-11	11	在宅医療と排尿管理	在宅医療において、排泄は”人間の尊厳”を保つ重要な項目である。排尿管理には医学的知識とともに、介護の知識など様々な面からのアプローチが必要となる。まず排尿トラブルを引き起こす各種疾患について概説し、医療現場における実際の排尿管理の各種方法、その問題点についても触れる。	6月23日	教授 窪田 泰江 名古屋市立大学大学院看護学研究科 臨床生理学
L-12	12	サルコペニアの病態解明および実臨床における治療の現状	サルコペニアは筋量と筋力の進行性かつ全身性の減少によりQOL低下や死の転帰を伴うものと定義される。超高齢社会を迎えつつある我が国においては重要な疾患であり、病態解明および予防・治療法の確立は医療経済学的観点からも喫緊の課題である。本講義ではわれわれが現在基礎・臨床の両面に取り組んでいる研究(自験データ)をふくめサルコペニアについて詳説する。	6月30日	助教 小山 博之 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学分野
L-13	13	基礎老化研究から学び直す高齢者の健康長寿	老化という現象を分子や遺伝子、細胞のレベルでそのメカニズムを探る昨今の老化の基礎研究の発展は著しい。本講義では老いることを認知症を含めた多くの老年病のリスクファクターと捉え、その原因を生体防御機能と食を通じた栄養介入を中心に解りやすく学び直してみたい。	7月7日	センター長 丸山 光生 国立長寿医療研究センター 研究所 ジェロサイエンス研究センター
L-14	14	地域包括ケアシステムと薬剤師	地域包括ケアシステムの重要な課題は多職種の効果的で円滑な連携である。薬剤師による居宅療養指導は、ここ数年でかなり推進されてきており、さらに地域の高齢者の健康増進活動に薬局が積極的に関与する事例が増えてきている。薬剤師の地域医療における貢献の現状と課題について具体的に解説する。	7月14日	教授 鈴木 匡 名古屋市立大学大学院薬学研究科 臨床薬学分野
L-15	15	まとめ	超高齢社会の進展に並行して加齢により認知機能低下を伴う人の人口比率も増えていきます。認知症の概念を理解しつつ、自分がそうなったときの終末期の希望アンケートを考えていき、本講座のまとめとしたいと思います。	7月21日	教授 赤津 裕康 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学分野